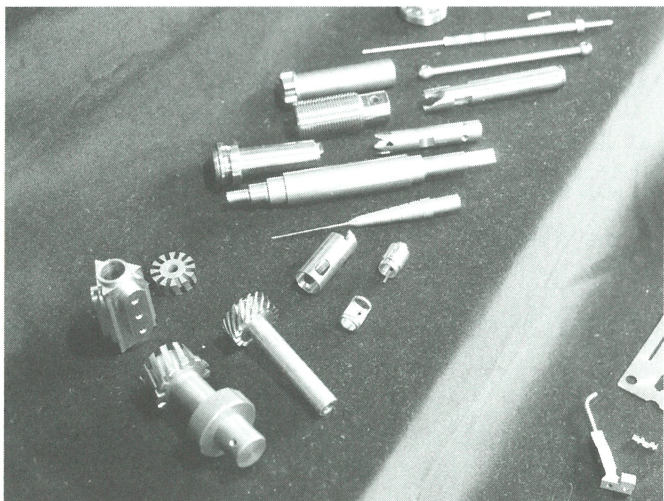
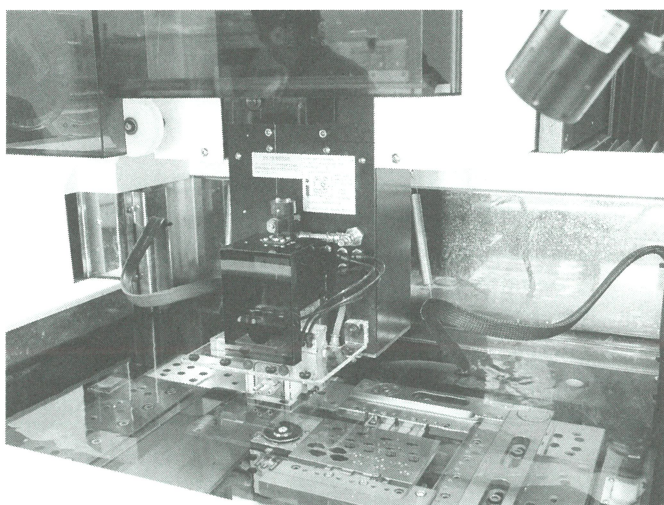
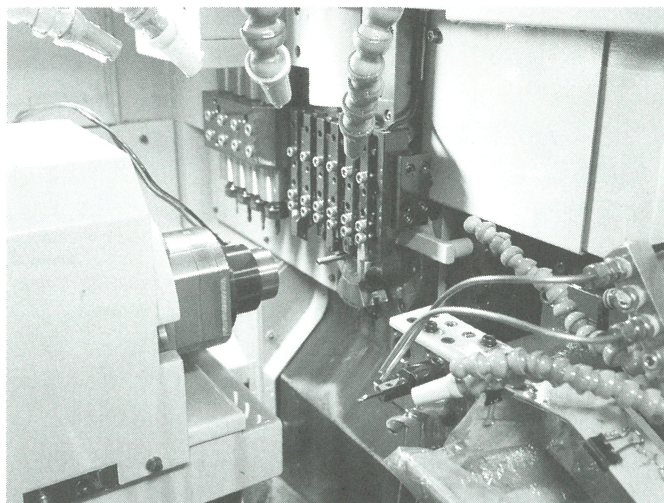


有限会社野溝製作所



■平成25年度テーマ

自社開発工具を用いた医療機器用超精密部品の工法開発及び設備導入

■平成25年度概要

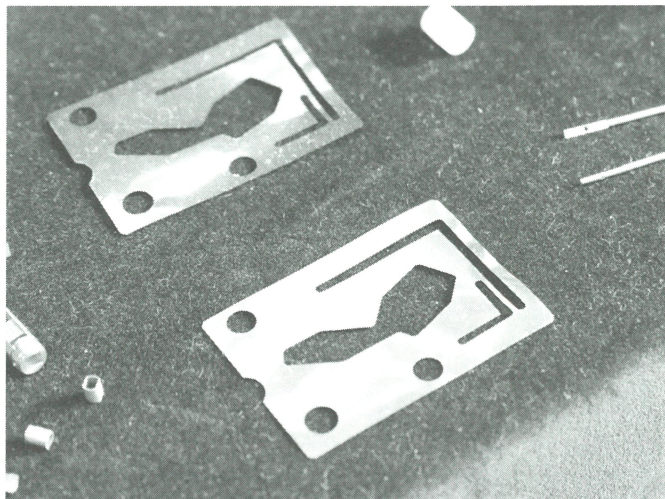
通常の工法では不可能な、医療機器用部品の超精密微細加工を、自社の得意とする特殊工具・治具を開発することにより実現する。これにより、低コスト・高生産性の工法を確立し、競争力の大幅な強化を図る。

■平成25年度分類

- ＜対象類型＞ 【ものづくり技術】
精密加工
- ＜事業類型＞ 成長分野型
試作開発＋設備投資
健康・医療

■事業の概要と成果

医療用内視鏡に使われる超精密金属部品について、高精度かつ低コストの製造を目的として、新工法の開発を行った。その概要は、製品の面取り用の専用工具の試作開発、及び高精度に加工するための最新式ワイヤーカット機の導入である。その結果、ほぼ計画どおりに開発事業を実施し、精密部品が試作された。これにより、事業化が可能になった。

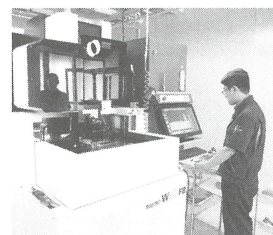


好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

有限会社野溝製作所（宮田村）

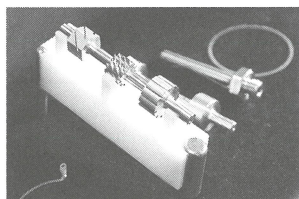
合理性を重視した独自の治具の設計・開発技術、
難削材、複雑形状の高精度加工と高い生産性を追求。



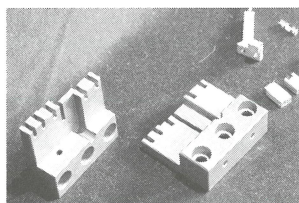
ワイヤー放電加工機

高精度・短納期の生産体制づくりに邁進

高精度な精密・微細、複雑形状の金属加工技術と、独自ノウハウを生かした製品づくりで大手メーカーからも一目置かれる、野溝製作所。難しい仕事を抱えた同業他社の設計・開発部門の“駆け込み寺”としても存在感を示しています。



複雑形状加工による製品



合理性を追求した独自の治具

1966（昭和41）年創業からしばらく、親会社から金型や材料を支給され、近所の主婦を中心とする内職の手を借りる下請け工場だった同社。しかし、野溝昭次社長が父親である先代から経営を引き継ぐと、金属の素材特性を把握した金型の設計に始まり、次々とその技術領域を拡大。高精度な製品を短納期で仕上げる生産体制づくりに邁進してきました。

一方で、なかなか利益が出ないのが悩みでした。そこで、ワイヤー放電加工機の導入により金型製作の受注が増えたことを契機に、利益体質の構築に着手。他地域でのレートを参考に独自の原価計算表を作り、いつ受注があっても的確に数字が提示できる単価設定を確立します。それが顧客から評価され、利益も確保できるようになりました。

さらに親会社から旋盤とプレスによる加工が必要な製品を受注したことから、CNC旋盤を導入し自社製造をスタート。それまで培ってきた技術と合わせ、ニッケル75%含有難削材の国内初量産に成功したことで、大手メーカーからも高く評価されます。

「梱包方式、品質管理で独自フォームが受け入れられ、納期の遅延もクレームも一切なし。顧客企業から社長表彰の栄に浴しました」と野溝社長。これが現在までにCNC旋盤11台を設備する端緒にもなりました。

思った時にすぐ着手できる設備を

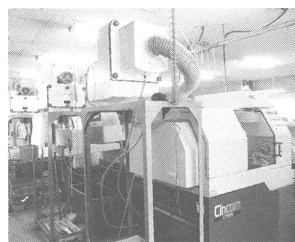
「当社が手がけるのは、他社ならとてもできな

いと断るような仕事がほとんど。こんな小さな会社ですが、材料特性の解析から、旋盤、ワイヤー放電加工、成型の高い技術があり、それぞれに専門実力者がいる。それが当社の強みです」と野溝社長は胸を張ります。

今回ものづくり補助金を活用して取り組んだのが、「自社開発工具を用いた医療機器用超精密部品の工法開発及び設備導入」。医療分野において海外から日本にシフトしてきている製品の取り込みを目指しています。野溝祐稔常務はその経緯を次のように話します。

「一番欲しかったのは再現度。我々が狙う再現度3ミクロン程度の加工治具を作るためには、今回導入したワイヤー放電加工機が必要でした。外注したらノウハウの流出になるし、納期も期待できない。自分たちが思った時にすぐ着手できる設備が絶対に必要だった。これで今後、無理難題が出てきた時にも対応できると喜んでいます」

合理性を重視した独自の治具の設計・開発と、高精度な加工、高い生産性を追求し、難削材の加工実績を積み上げてきた同社。将来的には、職人技として受け継いでいる



CNC旋盤

それらの知識・技術をデータベース化し、さらなる展開を図っていきたいと考えています。



有限会社野溝製作所

代表者 代表取締役 野溝昭次
創業 1966（昭和41）年7月
資本金 1,000万円 従業員数 18人
所在地 上伊那郡宮田村151



TEL.0265-85-2415 FAX.0265-85-2417

事業内容 複合旋盤加工・ワイヤー加工、精密機械部品、高精度線材加工・バネ